令和頑年度小松市立符津小学校　学校評価（年度末）

めざす児童生徒像

進んで自分の考えを表現し，振り返りや交流で深めることができる子。

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	表現する力の向上		①の４段階評価のＡ＋Ｂの割合が８０％以上にする。	①	算数科の授業の中で事象・考え方を言葉・式・図・表などを使って表現している。	・①の項目について、職員が９３％、児童は８２％で、どちらも指標以上であった。しかし、表現したことを全体で共有する場面が少ない。	・今後は更に、お手本となるノートの掲示や交流を行い、自分の考えを表現する力を向上させる。また、学校全体だけでなく、学級内でも算数ノートや自学の掲示や交流を行っていく。 ・符津っ子テストの正答率を上げるための取組が結果に結びつかなかったが、今後も継続していき、適用題の精選等をしていく。
				②	手本となるノートの掲示・交流を行っている。		
				③	授業のノートを自学や算数新聞で振り返っている。		
				④	符津っ子テスト（説明する問題を含む）で平均点70点以上とっている。		

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①②③の４段階評価のＡ＋Ｂの割合が９０％以上にする。	①	校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	・各部のリーダーが見通しをもって企画・運営したことで，「組織的な学校運営がなされている」の評価が上がった。 しかし，校務の平準化と言う点では，まだまだ偏りが見られ十分とは言えない。	・来年度へ向けて校務の内容や分担の見直しをリーダーを中心に各部で行い，業務改善につなげる。
				②	自分の校務分掌を自覚して行い，組織的な学校運営がされている。		
				③	電子会議室を活用し，印刷・配布時間や連絡時間の短縮を行っている。		

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	②③の４段階評価のＡ＋Ｂの割合が９５％以上にする。	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	・②の項目は１００％だったが、③の項目は９３％と目標指数を下回った。 ・校内研修の際には、講師を招聘し、テーマに沿った講話等を聞き、授業改善につなげることができた。	・今後も研究主題にせまる目指す授業像に向けた授業改善を、全体で共有・実践していく。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。		
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。		
		授業	①の４段階評価のＡ＋Ｂの割合が８０％以上にする。	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	・①の項目について、職員は１００％、児童は８３％で、どちらも目標指標以上であった。しかし、教員と児童との差が１７％あり、授業の中で考える時間はあるが、その時間の中では、思考しきれていない児童がいると思われる。 ・②～④の項目について、教員の割合は上がっているが、児童の割合は下がっている。	・課題解決に向けて、決まった児童だけで授業を進めるのではなく、すべての児童が授業に参加し、自分で考え、自分で取り組むことができるよう、今後もさらに課題設定の工夫や課題提示の手立てを考え、授業改善に努めていく。 ・２学期からの各学級における取り組みによって、③や④の項目において、教員と児童の割合の差はなくなった。各学級において、発表や書く機会を意識的に増やし、発表力や記述力の力がつくよう指導をしてきた結果だと思われる。 しかし、児童の割合が下がっているので、今後さらに児童が力の向上を実感できるような取り組みを計画・実施する必要がある。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。		
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。		
				④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して書いている。		
				⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。		
				⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。		
	学力の定着	学力調査	がんばりテスト（漢字・計算）で両方80点以上取っている児童の割合を75%以上にする。	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	・２学期に入り、漢字の練習の仕方を職員で共通理解し、繰り返し練習を重ねてきたことで、後半は伸びが見られた。ただ、前半は４年生が都道府県名をすべて漢字で書くこと、１年生がカタカナと漢字の両方に挑戦したことで、目標指標に届かなかったとも考えられる。 ・間違いの直しや復習の徹底が不十分だと思われる。	・学年末に向けて、今年度学習した内容の確実な定着に向けて継続、反復の学習を行い、がんばりテスト等を活用しながら、定着度を確認していく。 ・各学級では、授業を中心に力がつくよう指導を徹底し、課外の時間には級外を中心にして個別指導を継続し、定着を図っていきたい。
				②	学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。		
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）		
				④	がんばりテスト（漢字・計算）で両方80点以上取っている。		
				⑤	目標を達成できなかった児童に個別支援を行っている。		
		家庭学習	家庭学習強化週間中の宿題提出率を９５％以上	①	自分で計画を立てて勉強している（３年以上）	・全体としては、家庭学習を継続して取り組める児童が多く、強化週間があることで、先生方もより意識づけすることができた。 ・習慣化が難しかったり、カードの提出ができなかったりする児童は限られている。	・今後も継続して取り組めるよう、強化週間に限らず、常日頃から声をかけ、必要であれば保護者に協力をお願いしていく。 ・自分で計画を立てることについても、普段から計画を立てて学習する習慣をつけられるよう、学年の実態に合わせて児童と共通理解していく。
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている		
				③	宿題を家で行い，提出している。		